

読むこと 指導のポイント

(その7)

～ 音読活動の充実 ① ～

音読活動の本来の目的は次の二つです。

※ 教科書等の音読を中心に考えます。



- 1 英語の綴りを見て正しく発音できるようにすること
- 2 英文を正しく理解し、内容にふさわしく音声化できるようにすること

「CAN-DOリスト」
にも位置付ける。

音読活動では、生徒に“**文字を意識して読ませる（音声化させる）**”ことが大切です。ただ単に教師やCDの英語を「オウム返し」させるだけでは、その目的に迫ることができません。教科書本文等の音読活動は、**教科書本文の内容を理解させた後**に、次のような流れで行うのがよいと考えます。

【音読活動の基本的な流れ】

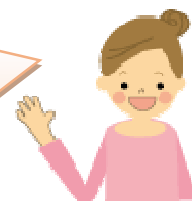
1	モデル提示（全文）	本文の英文全体を聞かせる。（教師またはCDによる）
2	Listen & Repeat	教師またはCDの後に繰り返し音読させる。
3	バズリーディング	生徒個人で音読させる。（会話文であればペアで）
4	ペアで確認	会話文の時は省略させる。
5	数名発表	代表生徒数名に発表させる。

※ 随時発音等の修正を行う。

文字を音声化する練習活動

自力で音声化する活動

今までは、Listen & Repeat やバズリーディングを目的も考えず行っていました。それぞれの目的をしっかりと意識したいと思います。文字を意識させるために、ルビなどを安易にふらせないことも大切です。



そうですね。自力で音声化できるようになることが大切ですので、安易に英文にルビをふらせることも避けたほうがよいでしょう。

自力で英語を音声化できるように、音声化する練習活動と自力で音声化する活動を上手に組み合わせて取り組んでください。

T中学校では、「自力で音声化」できるようになることを意識して、上記の音読活動の基本的な流れにある Listen & Repeat に当たる部分を工夫しています。次頁に紹介します。

T 中学校の実践例

【音読活動の基本的な流れ】

1	モデル提示（全文）
2	Listen & Repeat
3	バズリーディング
4	ペアで確認
5	数名発表

（１）生徒が、１文ずつ自力で英文を音読する。

（２）１文ずつ、再度モデルを示す。（教師やCD）

（３）生徒が、再度１文ずつ音読する。

生徒が本文を自力で読む。

再度正しい英文を示す。

正しい読み方を確認し、再度読む。

展開例)

生徒：There is... a library...in my town.

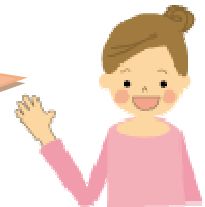
教師：Repeat .

_____ There is a library in my town.

生徒：There is a library in my town.

（次の英文に進む）

英文を生徒にリピートさせる前に、生徒が「自力で英文を音読する」活動が加えられています。難しいかもしれませんが繰り返すことで、文字を音声化する力が付くと思います。



その後、教師やCDの英語を聞いて自分の読みを振り返り、再度英文を音読させています。この一連の流れを行うことで以下のようなメリットがあると考えられます。

- モデル提示（全文）の際、音を聞こうとする意識が高まります。
- 生徒の文字を読む意識が高まります。
- 継続することで、文字を正しく発音する力が付きます。
- 自分の英語を自ら修正する力が付きます。

各校でもこれを参考に、音読活動の目的を意識して取り組んでください。

なお、以下の点についても、生徒の実態に応じ、段階的に指導する必要があります。

(ア) 現代の標準的な発音

(イ) 語と語の連結による音変化

(ウ) 語、句、文における基本的な強勢

(エ) 文における基本的なイントネーション

(オ) 文における基本的な区切り

最近、よく“英語の文字を読むことができない生徒が増えている。”という声を聞きます。音読の本来の目的に目を向けて取り組むこと（特に1年生時）が、解決策の一つになります。